

## 2021年度 独創的研究助成費 実績報告書

2022 年 3 月 31 日

報告者	学科名	看護学科	職名	准教授	氏名	池田 理恵
研究課題	産後うつ予防の要因に関する香港との国際比較					
研究組織	氏名	所属・職		専門分野	役割分担	
	代表	池田 理恵	看護学科・准教授	母性看護学	全体統括	
	分担者	百田 由希子	博士前期課程3年	母性看護学	統計解析	
		天川 慧美	博士前期課程3年	母性看護学	データ収集	
Vivian Ngai		香港理工大学・准教授	母性看護学	香港でのデータ収集		
		川下菜穂子	看護学科・助教	母性看護学	統計解析	
研究実績の概要	<p>日本でのデータ集は以下の方法で行った。3月末にデータ収集を修了した。9月までの結果について分析し、EAFONS2022に投稿し、採択された。その結果を示す。</p> <p><b>【方法】1. 対象</b> 安定期(妊娠20~34週)の妊婦の夫を対象とした。2. 調査方法 自記式質問紙を用いて対象者の属性や家事、育児時間、産後うつ、睡眠障害、睡眠に影響する因子、児への愛着を調査した。平成29年8月から平成30年3月に中国地方の病院と助産院に妊婦健診に来院した妊娠20~34週の妊婦に説明書を配布した。妊婦にWEBでアンケートに回答してもらい、回答時に父親のメールアドレスの記入を求め、父親のメールアドレスにWEB調査のURLを送付し、協力を依頼した。</p> <p>質問内容は、対象者の基本属性(年齢、職業の有無、配偶者の有無、家族構成、うつ病の既往の有無、世帯収入、経済的ゆとり、家族の精神疾患の既往の有無等)、産後うつ(EPDS)、睡眠障害(PSQI)、愛着障害(PBQ; 全項目を4個のFactorに分けて評価)、疲労度についてである。</p> <p><b>【結果】</b> 説明書の配布数は2000枚であった。回収数64枚(回収率3.2%)であり、回答に欠損の無い60枚(有効回答率93.8%)を分析対象とした。 対象者の平均年齢は32.0±5.8(平均±SD)歳であった。職業は60名が全員ありと回答していた。 EPDSの平均得点は4.1±4.3(平均±SD)点で60名中cutoff値9点以上を示す人は7名(11.8%)であった。 PSQI得点の平均は4.7±2.7(平均±SD)点で、有効回答を得ることができた60名中cutoff値5.5点以上(睡眠障害あり)の対象者は18名(30.0%)、5.5点以下(睡眠障害なし)の対象者は42名(70.0%)であった。疲労度の平均は4.3点であった。NRSにはcutoff値が制定されていないため、平均値4.3点をcutoff値とした。有効回答を得ることができた60名中cutoff値4.3点以上の対象者は33名(55.0%)、4.3点未満の対象者27名(45.0%)であった。半数以上の父親が高い疲労度を感じており、要因として、育児・家事時間、労働時間に着目すると家事時間、育児時間、就業時間には関係はみられなかった。 PBQは有効回答を得ることができた60名中Factor1(愛着不全)のcutoff値12点以上は</p>					

<p>研究実績 の概要</p>	<p>12名(20.0%), Factor2(拒否と怒り)の cutoff 値 13 点以上は 1 名(1.7%), Factor3(育児不安)の cutoff 値 10 点以上は 11 名(18.3%), Factor4(虐待リスク)の cutoff 値 3 点以上は 0 名(0%)であった。</p> <p>EPDS と PSQI, 疲労度, PBQ について Fisher の直接法による検定を行った結果、EPDS と PSQI, PBQ の Factor1, Factor4 には有意な関連があった。PSQI については、抑うつでない 53 名のうち睡眠障害がある人は 14 名(26.4%), 抑うつのある 7 名のうち睡眠障害がある人は 5 名(71.4%)であった。Factor4 については、抑うつでない 53 名のうち虐待リスクがある人は 0.0%である一方、抑うつのある 7 名のうち虐待リスクがある人は 2 名(28.6%)であった。</p>
<p>成果資料目録</p>	<p>Rie Ikeda, Yui Abeno, Kanae Narita, Minori Fujika, et al., Sleep quality, depression, fatigue, and father-infant attachment of fathers of 4-month-old infants, the 32nd ICM Triennial Congress, Bali, Indonesia(hybrid), June, 2021.</p> <p>Anju Ninomiya, Moan Takamine, Maho Hayashi, Marina Fujimoto, Hiroko Fujiwara, Midori Umezaki, Naoko Kawashita and Rie Ikeda, Association between paternal depression and fetal attachment, EAFONS2022, Taiwan(Hybrid), April, 2022. (投稿中)</p>